

**教科目標**

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 音の重なりや和声の響きに重点を置いた活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 音楽の美しさを味わって聴き、様々な音楽に親しむようにする。

月	単元名	時数	学 習 活 動	評価規準及び(評価方法)
4 5	ふしの重なり合いを味わおう	5	声や音が重なり合う響きを味わって、表情豊かに歌ったり演奏したりする。	関 声や音が重なり合う美しい響きを味わって、表情豊かに表現しようとしている。 表工 旋律が重なり合う響きを感じ取って、美しく響き合う合唱や合奏を工夫している。 表技 重なり合う旋律を感じ取って、表情豊かに歌ったり楽器を演奏したりすることができる。 鑑 歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じ取りながら、友達の表現のよいところに気づいて聴くことができる。
6 7	世界の音楽に親しもう	8	旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、世界の音楽に親しむ。	関 世界の国々のいろいろな音楽に興味をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。 表工 旋律の特徴や歌詞から曲想を感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫している。 表技 曲想を感じ取って、旋律の表現の仕方やリズム伴奏を工夫して演奏することができる。 鑑 世界の国々の音楽の違いを感じ取ったり、それぞれのよさを味わったりしながら聴くことができる。
9 10	いろいろなひびきを味わおう	8	音色や響きの特徴を味わって、想像豊かに聴いたり表現したりする。	関 楽器の音や重なり合う響きに興味をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。 表工 声や音が重なり合う響きを感じ取って、歌い方や楽器の組み合わせ方を工夫している。 表技 重なり合う声の響きや楽器の音色に気を付けて、合唱したり合奏したりすることができる。 鑑 演奏形態による曲の感じや響きの違いを感じ取ったり、それぞれのよさを味わったりしながら聴くことができる。
11 12	重なり合う音の美しさを味わおう	5	和音の響きの美しさを味わって聴いたり表現したりする。	関 合唱や音が重なり合う響きに関心をもち、美しい響きを求めて表現の仕方を工夫しようとしている。 表工 声や音が重なり合う響きを感じ取って、美しく響き合う合唱や楽器の演奏の仕方を工夫している。 表技 響きのある声で合唱したり、歌声とのバランスを工夫しながら楽器を演奏したりすることができる。 鑑 いろいろな演奏形態による合唱の響きや、歌曲の美しさを味わいながら聴くことができる。
1	日本の音楽を味わおう	6	日本の楽器の響きや旋律の特徴を生かした音楽の美しさを味わう。	関 旋律の特徴や楽器の音色に関心をもち、進んで聴いたり表現したりしようとしている。 表工 旋律や楽器の音色など日本の音楽の特徴を感じ取って、表現の仕方を工夫している。 表技 曲想をとらえて、歌ったり楽器を演奏したりすることができる。 鑑 旋律や音色、響きなどが醸し出す楽曲全体の雰囲気や美しさを味わいながら聴くことができる。
2 3	明日に向かって	10	心をこめて演奏したり、気持ちを合わせて表現したりする。  これまでの学習を生かして、友達と一緒に気持ちをこめて表現する喜びを味わう。	関 友達と声を合わせて歌ったり、心をこめて演奏したりする活動を楽しんでいる。 表工 ひとつひとつの音や歌詞の表す気持ちを大切に、表現の仕方を工夫している。 表技 気持ちをひとつにして、心をこめて歌ったり楽器を演奏したりすることができる。 鑑 互いの演奏のよさや、つくった作品の特徴を感じ取りながら聴くことができる。
合計授業時数			50時間	

**保護者の方へ**

教科書は教育芸術社のものを使用します。6年生は最高学年としての自覚を持たせ、他の学年の憧れとなれるような歌声や合奏などを目指していきたいと思います。高学年になるとまわりを意識しすぎて自分本来の表現をすることが難しい児童も見られます。他学年との交流も積極的に行い、6年生の自覚を高めていけるように支援していきたくと考えています。

**【評価方法】**

- ・観察(行動、発言など)
- ・プリント(楽譜、自己表現、自己評価、話し合い等のもの含む)
- ・実技(テスト、発表も含む)